



2学期が始まって

【2学期始業式：校長先生の話】

楽しかった夏休みが終わりました。皆さんどんな夏休みでしたか。

東京オリンピックでの日本選手の活躍に感動したり、勇気をもらったりしたのではないのでしょうか。1学期の終業式でお話したように、「勝負の場でも相手を思いやる」ような、勝ち負けの嬉しさや悔しさだけではないもの、つまり人間力に心を動かされたことはあったのでしょうか。私も報道でいくつかのことを知りました。その中から今日お話しするのは、この人についてです。

柔道男子 72 キロ級でオリンピック2連覇を達成した大野将平選手です。実を言うとこの選手については、3年生の道德の教科書に載っています。3年生はもう既に学習したということですし、1, 2年生は3年生になった時に学習しますが、今日の私の話は、その時の道德の授業にマイナスには働かないと判断した上で、お話しします。

私が彼を知ったのは、5年前のリオデジャネイロオリンピックの時でした。柔道にもその人のスタイルというのがあって、特に外国人は、自分の得意の組み手になることや相手の得意の組み手を切ることに強くこだわるために、柔道着を両手で持って組み合うことを避ける、つまりきちんと組み合うことをしない柔道が多く見られます。そんな中、大野選手は常に日本柔道の伝統スタイルである「正しく組んで、正しく投げる」を貫いてきたのです。そうした柔道スタイルもさることながら、彼の所作、振る舞い、言動、考え方等に心を動かされます。今回も試合での活躍のみならず、その前後の振る舞いやインタビューを見聞きするに付け、熱い物がこみ上げてきました。

大野選手はリオ五輪で金メダルを取ってから、より自分の内面と向き合うようになりました。大きな大会には参加せず、大学院で大外刈りについての修士論文に向き合うこともしました。

彼は「若い頃は怖いもの知らず。でも、経験値を積んで勝負の怖さを知った。勝ち続けるためには自分の弱さを知る必要があった」と言っています。稽古相手を自分に見立て、どうすれば自分を負かせるかを考え抜きました。自分にはどんな癖があるか。エンジンのかかるの遅さをどう突くか。寝技なら対抗できるのではと。自分の弱点を客観視するのは気がめいるはずですが、それでも、その自分を倒す稽古を黙々と続けました。

また、こういうことも言っています。「オリンピックは柔道家にとって最高の舞台かもしれないけど、オリンピックだけに左右される人生だったら寂しい。柔道みたいに『道』がつく競技には一生、終わりが無いんだから」と。また、「弱さを経ない強さなんて、ないでしょう」「強くなりたいではなく、強くありたい」とも。オリンピックが延期され、誰もが悩み、どうふるまうべきかに苦しんだこの1年。大野選手の心も揺れました。それでも、人間として「強くありたい」と思い続けたその先に2連覇がありました。



2学期の始業式も校内TV放送で行いました。

大野選手は、山口に12年間住んで上京し、中学1年から親元を離れて寮生活を送り、柔道の私塾『講道学舎』でその礎を鍛えました。

そこで教わったことは、「柔道で強くなることを通じて人間力が成長していないと、やっぱり寂しいよね、強いだけじゃつまらんぞ」ということだそうです。

『『粗野なれど卑にあらず』という恩師からの教えがあります。荒削りだけれども卑しくはないと。人間には荒い部分があって完璧な人間はいないし、失敗してもいい。でも、するく生きるな、真っ直ぐに進めと。そういう人間でありたいなと思いました。本当の人間力というものを叩き込まれました。理不尽の中の我慢とか、本当の人としての強さとはなにかとか。根本的なものを思春期に叩き込まれたので、本当に追い込まれたときの意地みたいなものを持って戦っています。』と彼は語っています。

決勝で、ジョージアのラシャ・シャフダトゥアシビリ選手との延長戦を制した瞬間は陰しい表情を崩さず、ゆったりとした足取りで礼の位置に戻りました。畳の上では二コリともしない。勝利判定を受けるとしっかり一礼し、対戦相手と固く抱擁を交わしました。敗れたシャフダトゥアシビリ選手も両手を前に差し出して歩み寄り、畳の中央で強く抱き合いました。体を離し、顔が向き合った場面。大野選手は一瞬、右手の親指を立ててサムアップポーズを作り相手を称えました。最後に手を握り、ゆっくりと場外へ向かっていきました。そして、天井を数秒間見上げました。畳を降りる前にも数秒間丁寧に礼をし、そこを離れて初めて笑みをこぼしました。

大野選手はリオ五輪でも金メダルに輝きましたが、勝利を決めた後もあからさまに喜ぶ姿を見せず、畳上で対戦相手に敬意を払って深々と頭を下げる様が、「理想的な柔道家」として世界で評価されました。当時の写真が、3年生の道德の教科書に掲載されています。

そんな姿について大野選手はこう言っています。「相手のいる競技の中で、こちらが投げて勝っている。悔しがっている相手に対して、こちらが喜ぶということは、その相手に悔しさ以外の余計な感情を芽生えさせる結果になるかもしれない。だから何もしない。それが僕のスタンスです」と。余計な振る舞いが相手に“負、マイナスの感情”を与える可能性にも思いを巡らせています。相手へのリスペクト、敬意を欠かさない意味でも、淡々と、感情を表出させないのが、武道家・大野選手の人間力なのです。

彼は続けて言います。「感情を出すことは、競技によってはパフォーマンスという意味もあると思う。その気持ちもちろんわかります。ただ僕がやっているのは柔道で、武道なんです。だからそれが僕のやり方です。あくまで自分の考え、まわりに押し付けるものではありません。ガッツポーズとかっていうのは咄嗟にできるものだと思うんです。だからラスト1秒で逆転勝ちしたら、僕でもすると思う。でも勝って冷静なときに、過剰にやるのは、僕は嫌だなと。勝ったときのほうが相手の事を思いやれる余裕があると思います。」と。

大野選手が試合後のインタビューで言っています。

「まだ、私の柔道人生というのはこれからも続いていく。今後もやはり自分を倒す稽古を継続してやっていきたい。」

「リオデジャネイロ五輪を終えて、苦しくて、つらい日々を凝縮したような、そんな一日の戦いでした。われわれアスリートの姿を見て、何か心が動く瞬間があれば本当に光栄に思います。」

沢山の感動をもらったオリンピックでした。みなさんはどうでしたか？担任や教担の先生方、友達同士で自分の感動を話し合ってみてください。

さて墨坂中の夏休みです。スーパーアドバンスタイムで真剣に問題に向き合い、自己更新をしている

姿、生徒会役員の皆さんが墨坂祭の準備をしている姿、各部活動が練習に汗を流す姿、緑化委員の皆さんが花壇に水やりをする姿等がみられました。

皆さんはどんな夏休みを過ごしましたか。コロナウイルス感染症の予防をしっかりと行いながら、家族とゆっくりと過ごした人が多いのではないのでしょうか。全校一堂に会して、皆さんの顔を見ることができないことは残念ですが、朝昇降口では笑顔で明るい声で挨拶ができる生徒が何人もいて、元気ができました。きっと楽しい思い出がいっぱいでき、充実した夏休みだったのだと思います。校長先生は、みなさんが大きなケガや事故もなく元気で登校できたことをうれしく思います。

いよいよ今日から2学期が始まります。暑い夏から秋を過ぎて雪の降る冬まで続きます。86日間という1年間で一番長い学期です。各学年代表の生徒が、決意や抱負を発表してくれました。

今、発表してくれた3人の友達のように、2学期の目標やめあてを決めた人も多いことと思います。出発にあたり、これからの2学期、皆さんに期待することを2つ話します。

まず、1ヶ月後には生徒会最大行事の「墨坂祭」があります。墨坂祭をみんなの力を合わせて成功させましょう。成功させるとは、墨坂祭を通して「Sparkle ～輝け一瞬のキセキを君と～」を、そして、生徒会目標である「Making colors」を達成することです。ぜひ、一人ひとりが展示や発表・合唱・ゲーム競技に向けて努力を積み重ね、自分の精一杯を存分に発揮する。そして、その過程の中で、それぞれが友を大切に、友達とたくさん話すことで、絆を深めよりよい人間関係を築きあげていくことが、目標達成につながります。頑張りましょう。

二つ目は2学期の毎日の授業や生活に向けて1学期の始業式でお話したことと同じ事を伝えます。問題解決力をつけるために「考えて、やりとげる」ことを繰り返してください。「他者関係力」のために「伝え合い、わかり合える」経験を積んでください。「自己更新力」のためにフォーサイト手帳をぜひ有効活用して「よりよい自分を創り、自らを認め好きになってください。



タブレット PC を使用した学習も見慣れた光景になってきました

先生方はそのために墨中授業の「3ある」を引き続き授業の中で実施します。◆問いや願いがある授業 ◆友との対話がある授業 ◆振り返りがある授業です。そして、この授業の「3ある」を実施したり、家庭学習をしたりしていく中で、一人一台タブレット PC を道具として有効に活用していきましょう。ただし、それは心得の4 Sを全員が実行することが大前提です。3年生にとっては、自分の将来に大きく関わる進路選択の時が、この2学期にやってきます。1, 2年生にとっても、あっという間にその時が訪れます。中学の3年間は本当にあっという間で

す。誰かのためではないのです。ぜひ自分の自己実現のために、今以上に勉強してください。当たり前のことですが、1時間1時間の授業を大切にすることと家庭学習を今以上にしてください。

皆さんに期待することを2つお話ししました。コロナ感染予防をしっかりと行いながら、みんなで実現させましょう。

レーム選手へのメッセージ、361のメッセージが送信されました。そのいくつかを昇降口に掲示しましたので読んでみてください。レーム選手の男子走り幅跳びT64は9/1水の夜行われます。来週24日から始まるパラリンピックを応援しましょう。



代表生徒は放送室で発表しますが、発表後に教室で拍手が起こります

コロナ禍におけるタブレット PC を使用したオンライン授業

2 学期が始まってから市内の感染者数増に伴い、一時期は学校に来ることができない生徒の数が大幅に増えてしまいましたが、現在は出席できる生徒が徐々に増えました。コロナ対応のために時期や内容が前倒しで進められている GIGA スクール構想ですが、9 月前半はさらに急展開を求められる状況でした。本校では、校長の指導のもと ICT が得意な職員も苦手な職員も一丸となって、「生徒の学びを止めない」と、思いを一つにして精一杯の取り組みをしています。

しかしながら、授業の内容が聞き取りにくかったり、板書の文字が見えにくかったり、接続トラブルで配信がうまくできなかったりする等、生徒の皆さんには不便をかけている面があり、心苦しく思うこともあります。逆に、「オンラインで先生の話聞いていたら教科書の内容がわかるようになった」「オンライン授業に参加してから、単元プリントに取り組んだので、問題が解きやすかった」などの生徒の声を聞くとやってよかったなと嬉しくなります。また、オンライン学活（8/30）の経験も、オンライン授業の布石として有効に働いたのではないかと思います。オンライン授業の具体的な話はどこからも出ていない状況下での急な連絡だったにも関わらず、実施に向けて、ご家庭のご理解とご協力をいただいたことに感謝しています。

現時点では、授業配信が中心のオンライン授業ですが、双方向性の高い学習活動についても模索していきます。「子ども達の学びを止めない」ために、今後も家庭と学校で協力して進めていきたいと思っています。どうぞよろしくお願いいたします。



「『絶海の孤島』とはどういう意味？」机上の PC で授業配信をし、自宅で同時に課題を追究



「厳島神社の位置を調べてみましょう！」教室内でも自宅でも自分の PC を使って位置を確認



自宅では板書と教師の姿を視聴し、自宅内を写すカメラと音声は ON/OFF を使い分け可能



「教科書の問題も解いてみましょう」教室で次の課題を出した後に…



…「このページの問題だよ」と自宅にいる生徒に伝えています

PC からは「わかりました！ デジタル教科書でやります！」という元気のよい返事が聞こえました。Google Meet なら双方向性のあるやり取りが可能です。

ゲームフェスタのリハーサル 9月16日（木）

今週から墨坂祭の準備ができるようになってきたので、色々なことが急ピッチで進んでいます。どの場面でも生徒会役員が頼もしい姿でリードする姿が目立ちます。校舎に歌声も戻ってきました。残りの登校日数は少ない中ですが、**頑張れ！墨中生！**

